

令和三年度 統一模試 中学二年冬期テスト (実施時間四十五分間)

国語

注意

- 1 問題用紙は六ページあり、これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 2 監督者の指示に従って解答用紙を取り出し、番号と氏名を解答用紙及び問題用紙の決められた欄に記入しなさい。また、解答用紙の「QRコードシールをはる」と書かれたわくの中に、シールをはみ出さないようにしなさい。
- 3 監督者の「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
- 4 答えは、問題の指示に従ってすべて解答用紙の答えの欄に、はみ出さないように記入しなさい。
- 5 筆記用具は、HBかそれよりも濃いものを用い、文字がうすくならないように注意しなさい。
- 6 監督者の「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

氏 名	
-----	--

次の文章を読んで、あとの1～6の問いに答えなさい。

〔一〕～〔六〕は段落番号を示す。

創造性^(註)ということが、最近では特に高く評価されるようである。せっかく、この世に生まれてきたのだから、何か新しいことを創り出したい。大人になるということも、何かそのような新しい何ものかを、人間の世界にもたらそうとすることだといえるかもしれない。しかし、創造するといっても発明や発見をしたりとか、偉大な芸術作品を創り出すことのみをいっているのではない。自分なりの生き方を^{さぐ}探ることは、すなわち、創造ではないだろうか。□、われわれの人生そのものが、ひとつの創造過程である、というわけである。 (一)

創造するためにはイマジネーションが必要である。あれかこれかところ^{おも}に想い描くことによつて、われわれは新しくできあがつてくるものの可能性を探ることができる。しかし、それは単なる願望^{ねんぼう}充足の空想であつてはためである。創造につながるイマジネーションと、すぐに消え去つてしまう空想の差は、そこに費^つやされる心的エネルギー量の差によつて示される。前者の場合は、相当な心的エネルギーを必要とするのである。もつとも、この両者は判然とは区別しがたく、後者のほかない空想が前者の方へと創造的に高められてゆくときもある。 (二)

イマジネーションは創造の源泉であるが、それは子どもっぽいこととして価値をおかない人もある。しかし、その子どもっぽいことこそが創造の源泉となるのである。子どもの不安定さに対して、大人の安定性をあまりにも強調するとき、その安定は停滞^{ていた}にもつながるといえるだろう。つまり、毎日毎日きまりきつたことを繰り返すだけになつてしまつて、それを大人と考えるならば、それはまったくつまらないことになつてしまふ。②^②大人をそのようにとらえる人は、大人にはなりたくないとも考えることもあろう。 (三)

しかしながら、創造過程を歩むものとしての大人を考えるとときは、事態はそれほど単純ではない。このことは、真の大人というものは、その中に子どもっぽさを残している人だ、というふうにはいえないだろうか。ここにいる子どもとは、世の中のことをすべてきまりきつたこととは考えずに、あらゆることに疑問をもち、イマジネーションを働かせる存在だということである。コップを見ても、それはコップだということですませてしまわないで、そのコップはひよつとして話をするのではないかとか、もしもコップが空を飛んだらとか、考えてみることでできる大人こそ、本当の大人ではなからうか。大人になつても、自分のところの中に住んでいる子どもを生かしておくのである。

このようにいっても、大人のところの中の子どもの生かし方は、なかなか難しいのではなからうか。内界の子どもの力が強すぎて、何を見てもイマジネーションばかり働かせていたのでは、大人としての義務を遂行^{すいこう}できないであらう。といつて、子どもの力を弱めてしまふと、すべてのことがきまりきつたことになつて、創造性がなくなつてしまふ。 (四)

創造的退行という言葉がある。退行というのは、人間のこころの状態が子どもの頃にかえるような状態になり、まったくの無為^{むゐ}になつたり、ばかげた空想をしたりするようなことをいう。ところが、極めて創造的な人々の様子をよく観察すると、創造活動が活発になるときに、退行現象が生じることがわかつてきたのである。もちろん、それまでには意識的な探索活動^{たんさく}が大いに行われるのであるが、それに疲れた頃^(註)にこのような退行が生じ、そのときに普通では思いつけなかつたようなあらたな発見の萌芽^{ほしう}が生じるのである。それを確実に有用な創造にするためには、再び意識的な活動が必要となつてくるのだが、何しろ、もつとも根本的な着想は退行時に生じているのだから、そのような現象を称^{しょう}して創造的退行というようになったのである。 (五)

創造的退行の現象は、今までのいい方によると、大人が自分の内なる子どもと接触をはかり、子どもとの対話の中にヒントをつかみ、それを再び大人の知恵によって現実化してゆくことといえそうである。

(河合隼雄「大人になることのむずかしさ」による。一部省略等がある。)

(注) 最近Ⅱこの文章は一九八〇年代の初めに書かれた。

イマジネーションⅡ想像。 無為Ⅱ何もしないこと。 萌芽Ⅱきざし。

1 本文中の [] にあてはまる語として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア しかし イ つまり ウ だから エ または

2 線部①とあるが、その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 心的エネルギー量の小さい空想は、創造につながりにくいから。
イ 心的エネルギー量の大きい空想は、創造活動の妨げとなるから。
ウ 創造につながる空想は、願望充足の空想に比べてはかないから。
エ 空想と創造に発展するイマジネーションは、判別が難しいから。

3 線部②とはどういうことか。その内容の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 大人とは、子どもっぽいイマジネーションを捨て去ることで、高い創造性を身につけた存在であると考えること。
イ 大人とは、自分の中に子どもの頃の創造性が残っていても、その価値を認めようとしないう存在であると考えること。

ウ 大人とは、創造に必要な安定したイマジネーションをもつ点で、本質的に子どもと異なる存在であると考えること。

エ 大人とは、創造性よりも安定性を重視し、ひたすら型どおりのことを繰り返している存在であると考えること。

4 次の文は、(四) 段落で筆者が述べている「真の大人」についての考えを説明したものである。 [] に「疑問」「創造性」の二語を用いた五十字以内の言葉を補い、文を完成させよ。

真の大人とは、そのところの中に [] 人のことである。

5 次の文は、(五) 段落の内容を説明したものである。 [] に最も適当な三字の言葉を(五) 段落から抜き出して書き、文を完成させよ。

創造的な人々は、創造活動の過程で、こころが一時的に子ども頃のような状態となり、そのときに得られるあらたな着想を、有用な創造へと [] に高めている。

6 本文の内容について説明したものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 創造性を発揮して新しい何かを創り出せるかどうかで人は評価される。

イ 創造性が豊かな大人ほど自分に課された義務を果たさない傾向がある。

ウ 創造性の乏しい大人に退行現象が起きるのは探索に疲れたときである。

エ 創造性は自己の内なる子どもとの対話をきっかけとして現れてくる。

次の文章を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。

小学校五年生のカズヤが、転校を間近に控えた親友のトオルと、二人でいっしょに海まで出かけている場面を描いたものである。

「トオル！ どうする！」——怒鳴らないと、雨音に声がかき消されてしまう。

①「突っ走るしかないだろう！」トオルは自転車のスピードを上げた。でも、そんな無茶だ。雨はどんどん強くなる。大きな雨粒は、まるでブドウをぶつけられているみたいだった。風も強い。

ゴロツ、と空が鳴った。かみなりだ。

②「トオル！ 雨宿りしよう！」「怖いのか？ オレなんて、ぜーんぜん平気だぞ！」

そうじゃない。リュックの中に「ハックルベリー・フィンの冒険」が入っていることを思い出したのだ。雨はリュックの中にも染み込むだろう。本がぬれてしまって、ボロボロになったら……そんなの、嫌だ。

「本があるんだよ！」「はあ？」「いいから！」

サドルからおしりを上げて必死に自転車漕いで。トオルを追いついて、すぐ先の分かれ道で土手から降りた。土手の下はバスの走る広い道路になっていた。スーパーマーケットの看板が見えた。よし。トオルもついてきている。僕は振り向いて、「おまえに持って来てやった本なんだ！」と怒鳴った。

すると、トオルはきよとした顔になって、「オレも！」と怒鳴り返した。「オレも、カズヤに渡す本、持って来てる！」

スーパーマーケットで、いちばん安いガムを一つずつ買った。レジのおねえさんがシールだけですませようとするのを、すみません、袋に入れてください、とお願ひした。本をレジの袋に入れて、それをバスタオルでくるんでリュックの奥のほうにしまっておけば、なんとかなるだろう。

25

20

5

スーパーの自転車置き場には、うまいぐあいに屋根もついていた。雨宿りをしながら、トオルに背中を向けて本をレジの袋に入れていたら、「オレに持って来た本ってなんなんだよ。」ときかれた。「もったいぶるなよ。見せるよ、ほら。」——せっかちな性格なのだ。

「トオルだって、オレに渡す本って、なんなんだよ。」「なんだっていいだろ。」「よくないよ。なに言ってるんだよ。」

しばらく言い合ったすえに、二人同時に渡すことで話がまとまった。ほんとうは海に着いてから渡したかったけど、しかたない。トオルのほうも、ここで渡したくはなかったのか、不機嫌そうにしがさでリュックを探っていた。だったら「やっぱり海に着いてからにしようぜ。」とどっちが言えはいいのに、意地を張るとお互いにそれができなくなってしまうのが、なんというか、つまり、要するに……女子の言うように、男子ってバカでガキなのかもしれない。

「じゃあ、同時に見せようぜ。」「うん……。」

ガッツポーズと同じように、いっせいのつせつ、というかけ声なしに、僕たちは手に持った本を出した。

③「トム・ソーヤーの冒険」と、「ハックルベリー・フィンの冒険」が向き合った。

僕たちはあ然として、呆然として、しばらくそのまま黙り込んだ。

先にプツと噴き出したのはトオルで、「なんだよーっ。」と声をあげたのは僕だった。

「……もともとカズヤの本なんだから、返してやるだけだよ。」

トオルはムスツとした顔と声で言った。言いたかったせりふを先に言われた僕も「こっちもだよ。」と口元をもぞもぞさせて言った。「だから、べつに、プレゼントなんかじゃないし……。」

「わかってるよ、そんなの。」「オレだってわかってるよ。」

僕たちはまた黙り込む。今度は、先に「まいっちゃったなあ……。」と苦笑交じりに首をかしげたのは僕で、トオルは「信じられねーよ……。」とため息をついた。

50

40

45

結局、二冊は交換することになった。僕は「トム・ソーヤー」を受

け取り、トオルは「ハックルベリー・フィン」を新しい町に持って行く。トムとハックがトオルの本棚の中で並ぶ夢は消えた。トオルが思い浮かべていた、僕の本棚の中でトムとハックが並ぶ夢も、いつしよに消えてしまった。でも、それも、まあ……いいか。

▼交換した本をリュックにしまっていたら、先にリュックの蓋を閉めたトオルが、黙って自転車にまたがって、黙って外に漕ぎ出した。

「ちよつと待てよ！ おい、トオル！」

あわてて追いかけた。でも、トオルは振り向きもしない。

土手に戻った。海に向かつて、路面に溜まった水を派手にはね上

げながら、トオルはさらに力強く自転車を漕いでいく。まるで飛行機が滑走路で加速するように、ぐんぐんスピードを上げて、そして――。

「うおおおおおおおーっ！ うおおおおおおおーっ！」

吠えた。なんなんだ？ と驚いていたら、絶叫はやがて言葉になっ

た。「転校したくねえよおおおーっ！ オレ、転校やだよおおおおおーっ！」

僕を振り向かない。自転車のスピードもゆるめない。まっすぐに前を見て、びしょぬれの背中を丸めて、叫びつづける。

「転校、やだやだやだやだやだーっ！ 引越したくないないないないないーっ！」

僕は黙ってペダルを踏み込む。トオルの背中を追いかける。

（重松清「僕たちのミシシッピ・リバー」による。一部省略等がある。）

（注）ハックルベリー・フィンの冒険少年ハックを主人公とする小説で、少年トオルを主人公とする小説「トム・ソーヤーの冒険」の続編。

1 本文中の――線部①「突っ走る」と同じ品詞を含むものを次から一つ選び、記号で答えよ。

ア これが話題の小説です。

イ 選手の反応が素早い。

ウ 荷物を風呂敷に包む。

エ 休日の公園はにぎやかだ。

2 次の文は、――線部②について、カズヤがどのような気持ちから

「雨宿りしよう」と言ったのかを説明したものである。

二十五字以内の言葉を補い、文を完成させよ。

リュックの中に雨が染み込んで、 という気持ちから、

カズヤは「雨宿りしよう」と言った。

3 ――線部③とあるが、二冊の本が向き合ったことから、カズヤとトオルはお互い同じことを考えていたということがわかる。それはどのようなことか。「トムとハック」「本棚」の二つの語句を用いて二十字以内で書け。

4 ――線部④とあるが、この時のカズヤの気持ちについて説明したものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア トオルのせつかなな性格を考えれば、結局はトオルが二冊とも持つて行くだろうと思っている。

イ 二冊とも自分が持つていたいと思ったが、一冊だけ持つことで我慢しようとしている。

ウ これ以上意地を張り合っていてもしかたがないから、持つて来た本を取りかえるのをやめようと考えている。

エ 思いはかなわなかったが、持つて来た本を取りかえて、お互いに一冊ずつ持つのも悪くないと感じている。

5 次の文は、▼▲内のトオルの気持ちについて説明したものである。

Ⅰ は▼▲中から最も適当な五字の言葉を抜き出して書き、

Ⅱ は五字以上十字以内の言葉を補い、文を完成させよ。

親友のカズヤとⅠを、自分のリュックにしまったことをきっかけに、これまで抑えてきたⅡという思いがあらわれ出た。

3

次の文章を読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

二月にいたりても野山一面の雪の中に、清水ながれは水気温すいきあつたかなる
(なつても)

① ゆゑ雪の少し消ゆる処ところもあり、② これ水鳥の下りる処なり。雁かりんこれを見

ればまづ二、三羽ふた、さんここにおりて己まづ求食あさり、さて糞ふんをのこして喰くあ

(食へ物を) (そして) (食へ物)

る処の目とす。俚言りげんにこれを雁の代見立てといふ。雁のかくするは友

(目印)

③ (しつみ) (のよう) (仲間)

鳥を集つどひきたりて、かれにも求食もとくらせんとてなり。朋友ともだちに信まことある事人5

(食へさせよう)

(仲間に対して思いやりの) (気持ちをもちことは)

も恥はづかすべき事なり。

(恥ずかしいと思うほど) (素晴らしいことである)

(注) 雁Ⅱ秋に日本に飛来する渡り鳥。

俚言Ⅱある地域特有のことは。

〔北越雪譜〕による

1 — 線部①「ゆゑ」を現代仮名遣いに直して書け。

2 — 線部②「これ」の指す内容を、本文中から八字で抜き出して

書け。

3 — 線部③「雁の代見立て」とあるが、これは雁がどのような行動をとることか。二十字以内で説明せよ。

4

4 本文の内容について説明したものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 雁はお互いを思いやって行動しているが、それは人にはなかなかできないことである。

イ 雁は仲間と支え合って生きていこうとしているが、それは人においてもよくある話だ。

ウ 雁は春の到来を告げる水鳥なので、雪深い山里の人々は楽しみにして待ち望んでいる。

エ 雁は自分の信念に基づき自信を持って行動するが、人はそのような行動を避けたがる。

次の — 線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書きなさい。

1 産業のテイヘンを支える人たち。

2 場所をモウける。

3 日本列島をジュウダンする。

4 優勝のシユクガ会を開く。

5 丹精をこめて作る。

6 簡単に償うことのできない過去。

7 体全体が鉛のように重い。

8 人工海浜エリアとして活用される。

次は、合唱部の部長が、新入生全員に部活動紹介をするために準備した原稿である。山本さんは、合唱部の部長から原稿についての助言を頼まれた。この原稿を読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

こんにちは。合唱部です。合唱できれいなハーモニーが生まれたときの気持ちよさは、音楽の授業などで誰もが一度は経験したことがあるのではないのでしょうか。合唱部では、そんな気持ちよさを味わえるだけではありません。聴いてくださる人々の前①で思い通りに歌えた喜びは、格別②です。そのために私たち合唱部は、日々の活動に励んでいます。

ふだんの練習では、発声練習や歌唱練習はもちろんですが、体を使ったさまざまなトレーニングも行います。まずストレッチで体をほぐした後、発声練習を兼ねて、顔の筋肉を大きく動かす運動をします。ときどきランニングも行います。

作詞者や作曲者の思いを理解し、全員で一つの曲を作りあげていくのは簡単なことではありません。うまくいかずに苦戦したこともあります。しかし、満足のいく合唱ができたときには、何物にもかえられない達成感が得られます。

現在の部員は二年生と三年生合わせて十五人で、男子部員五人、女子部員十人です。毎週火曜、木曜、金曜日に音楽室で活動しています。

今度、音楽室で、私たちの歌声を聴いてもらうためのミニコンサートを行います。市の音楽祭で金賞を受賞したときの課題曲のほか、「翼をください」などを歌います。ぜひ聴きに來てください。

1 線部①「人々」を、敬意を表す表現にしたい。意味を変えずに、敬意を表す別の表現に直して書け。

2 次の文は、——線部②「格」を行書で書いたものである。使われている筆遣いとして適当でないものを次から選び、記号で答えよ。

格

ア 点画の省略 イ 筆順の変化
ウ 点画の連続 エ 点画の方向の変化

3 山本さんはこの原稿を読んで、ミニコンサートに來てもうために必要な情報が不足していると気付いた。ミニコンサートに來てもうために必要な情報とはどのようなものか。五字以内で書け。

4 次の文は、原稿を読んだ山本さんが部長に伝えた助言の内容である。
I には原稿中の□の部分の言葉を用いて十字以内の言葉を書き、II には□中から最も適当な十字の言葉を抜き出して書き、文を完成させよ。

この原稿の長さだと割り当てられた時間内では部活動紹介をきれないので、①か②の段落のどちらかを省けばよいと思います。
①を残した場合は I が伝わり、②を残した場合は II が伝わると思っています。

6 あなたのクラスで、「計画性を持った行動が、将来仕事に就いて社会生活を送っていく中でどのように役立つか」ということについて話し合いをすることになった。あなたの考えを、あとの(1)～(4)の条件に従って書きなさい。

条件

- (1) 二段落で構成し、六行以上八行以下で書くこと。
- (2) 第一段落には、あなたの考えを書くこと。
- (3) 第二段落には、第一段落のように考える理由を、体験や見聞を含めて書くこと。
- (4) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

